

西室泰三さんに贈ったつえ デザイナー 川崎 和男さん

仲々
ふしぎ



昨年末、東芝相談役で東京証券取引所グループ会長の西室泰三さん(74)に、私がデザインしたステッキを贈った。「雨の日にステッキが滑って困るんだ」と言っておられたので、石突き部分に北極海で働く漁師が靴底に使う滑り止めの素材を使った特製品だ。

ところが贈ったステッキの取っ手が大柄な西室さんの手には小さすぎ、作り直すことに。大阪大の私の研究室で一番手の大きい学生で型を取ったのだが、それでも足りなかったようだ。

私は東芝に入社してデザイナーとしての一歩を踏み出した。ただ西室さんとの出会いは昨年9月。同社の幹部向け講演会に招かれて「西田(厚

大きな手 人柄さながら

かわさき・かずお 1949年生まれ。金沢美術工芸大卒。工業分野を中心に幅広いデザイン活動で知られる。2006年から大阪大教授。

「聡会長)さんですか」と話しかけた相手が西室さんだった。失礼なことを言ってしまったものだ。

だが西室さんは笑顔で動じない。「東芝は韓国のサムスン電子に絶対に勝たなきゃいけない」など私の率直な物言いを気に入ってくれたようだ。

私がデザインした眼鏡を米副大統領候補だったサラ・ペイリン氏がかけていた話になると「次はおれが宣伝してやろう」と私の作った眼鏡をかけてくれたりもした。

ステッキについては取っ手が小さい以外は「全然滑らない」と褒めていただいた。だが私のステッキは開発途上。石突き部分に道路上の障害物を発見するセンサーを付け、お年寄りや目の不自由な人に使ってもらいたいと構想を練っている。

「ご本人の手形を基にステッキを作り直し、産業界の未来を話し合う日を楽しみにしている。」